



びすけっと

218号—2021年2月—

埼玉県立小児医療センター

血液・腫瘍科

親の会 びすけっと

もっとみなさんとつながれるように…

Instagram始めました!

https://www.instagram.com/biscuit_oyanokai/



🌱がんの子どもを守る会 web 講演会

「小児がん患児・経験者のアピランスケア～ちょっと心が軽くなる外見ケアのお話～」

国立がん研究センター中央病院 アピランス支援センター長 野澤桂子先生

頭髮に関しては、大人の患者を対象にした研究で1年後に元通りに発毛した人は50%程で、その後はあまり変化は無い。エビデンスレベルはあまり高くないが、現在再発毛促進の効果が検証されているのはミノキシジルだけ（使用する場合は皮膚科に相談すると良い）。費用も考えた上で納得できる方法を試す場合は、少なくとも3ヶ月は試して効果が無ければ止めてもいいし、6ヶ月以上試して効果が無ければそれ以上試しても意味がない。

脱毛予防に関して乳がん患者を対象にした頭皮冷却法では26.7%の人に効果があったが、現在実施できる施設は限られている。

無人島に自分しかいなかったら外見を気にするか考えてみてほしい。外見の変化による悩みは病気を連想したり、自分らしさの喪失や他者との関係性が変化するのではという悩み。お子さんの場合、毛が無いことが悩みではなく、自分だけ仲間はずれになるのではないかという悩み。悩みの本質は社会関係性にある。支援のゴールは患者と社会をつなぐこと。外見をどう見せるかは手段の一つに過ぎない。カムフラージュの方法は目的や場面によって使い分けていい。

ウィッグを使用する場合は支援情報を集めた方がいい。メーカーや患者会、自治体などの支援がある。帽子もいろいろある。体の傷にはボディ用ファンデーションがある（通販などでも購入できる。マーシュフィールド等）。心配でも本人の希望以上のことをしない。子どもは嫌な体験も温かい体験もしながら自分で工夫して成長していく。一番大事なのは、外で傷ついても家に帰ったとき自分をまるごと受け入れてくれること。それが外に出て行く力になる。

質問に答えて

人が振り返るといのは動物的な反応。自分と違う物は本能的に見てしまう。嫌なことははっきり言った方がいい。本人にも外見の変化の原因を理解できるようにする。人に病気のことを話すタイミングは人間関係が深まってからで良い。医療者は患者や家族に寄り添うことだけでなく、新しい視点を提案できるようになってほしい。自分でできることを探せるように、本人の成長につながる支援を心がけると良い。

国立がん研究センター中央病院 アピランス支援センター

<https://www.ncc.go.jp/jp/nccch/division/appearance/index.html>

アピランス
支援センター→



次回のびすけっとは、**3/9 (火) 11:00～**

相談室 B (2F 総合受付奥)

※びすけっとの参加のためだけに病院に来られた場合、

以下の点にご注意下さい。

- ・駐車料金は一般料金になりますので、病院外の駐車場をご利用することをおすすめします。
- ・入館時の健康チェックシートは、外来・面会用ではなく、職員専用通路内にある来客・業者用をご使用ください。

※変更の場合があるため、
来る前にインスタやLINE
で確認してね。

柳戸LINE、QRコード

ラインでのご連絡もOK!

